



環境サロン9月までの予定

出遅れていた今年度の環境サロン7月より始動し、7月は2回のサロンを実施しました。第1回は、これまでとはすこし経路の違う「お掃除に学ぶ」と題して、山根好子さんに公共のトイレ等のお掃除を通して、自分の生き方まで影響を与えた18年間の経験を話していただきました。

第2回は、教育委員会の今鶴勇二先生に「地域とともにある学校づくり ～宇部市のコミュニティ・スクール～」と題して、このところ急速に進みつつある地域と学校の連携の状況をお話ししていただき、学校の先生、地域の世話役の方々をまじえ、建設的で有意義な議論ができました。

興味のあるサロンにどうぞお気軽にご参加ください。高校生以下は無料です。 浮田

8月8日(土) 15:00～

場所：まちなか環境学習館
「子どもの育ちを支える食育環境のあり方 ～台所に立つ子どもと家族の絆を育む取組について～」池田良鶴さん (宇部地区保護司)

子どもがつくる「弁当の日」提唱者で香川県の小学校校長もつとめられた竹下和男先生のビデオも見ながら、食育の重要性とともに、子ども自身が台所に立つことの意味合いについて考えます。

参加料：200円 (ただし100エコハ進呈)

8月20日(木) 18:00～

場所：まちなか環境学習館
「情報環境 ネットの使い方」河川 隆さん ((株)アワセルブス)

われわれを取り巻く情報環境は、近年急速な変化をしています。とくに子ども達の発育に与える影響は計り知れないものがあります。情報産業の一翼を担われている専門家に、このあたりの問題点について、わかりやすくお話ししていただきます。

参加料：200円 (ただし100エコハ進呈)

8月27日(木) 18:00～

場所：まちなか環境学習館
「出来ることをやってみよう！まちづくり・ひとづくり～地域や人との連携が様々な効果を生む～」川辺真也さん ((株)林材)

「木材使い放題」の新スタイルで人気のキッズうべたんや、ねんりんピックの木工教室の企画・運営の経験をお話ししていただき、できることからやってみる面白さについて考えます。

参加料：200円 (ただし100エコハ進呈)

第17回まちなかエコ市場

9/12(土) 10:00～15:00

出店(展)者大募集中!

環境やエコに関する活動紹介や展示。とれたて新鮮野菜、お米に苗木。食べ物やスイーツ、フリマなどなど。

自慢の“逸品”をもって、エコプラ銀天広場に集まれ!

まちなか銀天 おそうじ隊募集!

毎月最終日曜日にまちなか環境学習館周辺や銀天街アーケードなどおしゃべりしながら楽しく掃除しています。

次回は8/30(日) 15:00～
終わったら参加者みなでお茶会をします。一緒に掃除してみませんか?

宇部市環境学習ポータルサイト

「うべくる」

うべくる 検索

<http://www.ubekuru.com>
[kuru.com](http://www.kuru.com)

宇部市のいろいろな環境学習拠点の紹介、環境関連のイベントのお知らせなど、随時更新しています。

「銀天エコプラザ」の詳しい紹介もあります。
facebookやTwitterへもこちらからアクセスできます。

まちなか環境学習館や環境に関することについて、ご意見・ご質問等、お気軽にお寄せください。ポータルサイト内の問い合わせ欄やブログ、フェイスブックのコメント欄もご利用ください。



「市民共同発電－3」収益性の試算

【前提条件】	①発電設備能力	10kw	④稼働期間	20年間、経過後廃棄
	②発電効率	12%	⑤発電能力経年劣化	0.5%/年
	③売電単価	32円/kwh	⑥発電機設置費用	35万円/kw 350万円
項目	金額(円)	詳細		
売電収入	6,391,296	①発電量：10kw×365日×24h×0.12×0.95×20年 =199,728kwh ②199,728kwh×32円/kwh=6,391,296円		
合計	6,391,296	20年以上使用した場合、上乘せされる、しかし売電単価は不明		
【経費】				
発電機設置一式	3,500,000	35万円/kw×10kw=350万円		
パワコン更新	600,000	10年目に更新、5kw×2台		
電力計更新	25,000	10年目に更新		
定期点検	90,000	5,10,15年目に点検		
撤去費	200,000			
固定資産税	310,000	残存簿価の1.4% 定率法		
金利	525,000	3,500,000×0.015×20×0.5=525,000		
その他		ファンド手数料 3,500,000×0.001、借地、借家根代		
合計	5,250,000			
収支差額		+1,141,396	(約5,000円/月)	

津島

環境歳時記（8月4日）：イタイイタイ病の名が初めて新聞紙上に（1955年）

富山県の医師萩野昇は大学卒業とともに応召入隊し、1946年中国より復員し婦中町（現・富山市）の実家の「萩野病院」を継いだ。

萩野を待っていたのは驚愕の現実であった。そこには原因不明の奇病に苦しむ多くの中高年の女性患者たちがいた。患者達は苦痛のあまり「痛い！痛い！」と叫び、重症の患者の足は何箇所も折れ曲がり、満足に歩くことができない状態であった。

診断しようと腕を取っただけで骨折し、激痛を患者に与えてしまう。そして「風土病」「業病」と恐れられ、やがて家族からも遠ざけられながら、脳は冒されないため意識だけは明瞭なままで、激痛に悶えながら衰弱死に至る。家庭崩壊の悲劇も相次いでいた。これが萩野医師の生涯に渡って取組むイタイイタイ病との付き合いの始まりであった。

この病はさかのぼること35年前には当地で確認され、富山県議会でも神通川上流、岐阜県神岡にある三井鉱山神岡鉱業所の鉱山廃液の鉱毒問題と関係しているのではとして取り上げられていた。発生源との疑いの持たれていた神岡鉱業所は古くは16世紀末に銀山として発見され、明治時代になってから三井組が経営に乗り出し、垂鉛鉱石の採鉱が始まった。その後、選鉱法が浮遊選鉱法に変更された為、鉱石が微細化し、廃水中への流れ出しも増え、鉱害を大きくすることとなった。

戦後、萩野医師らの本格的な実態調査も始まり、萩野医師は、外来患者の多くが神経痛様の痛みを訴えること、患者の発症地点が神通川流域の一定地域に集中していることに注目し研究を重ねた。

そしてこの公害病取材している記者の医師との会話の過程で「イタイイタイ病」の名前が出てきた。そして1955年8月4日の富山新聞のこの「イタイイタイ病」名が初めて登場することとなった。

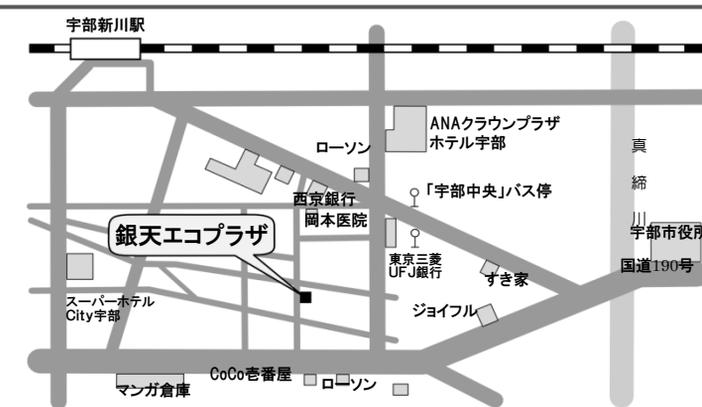
1957年（昭和32年）富山県医学会で、萩野医師は神通川水中に含まれる亜鉛・鉛などの重金属が病気の原因だとする鉱毒説を初めて提唱した。その後、萩野医師の主張した神岡鉱業所から排出される廃水による鉱毒説は様々な誹謗・中傷にさらされるが、長年このイタイイタイ病に苦しむ患者達はこの鉱毒説をよりどころに1968年3月富山地方裁判所にイタイイタイ病訴訟を行った。

また同年、厚生省は「イタイイタイ病の本態は、カドミウムの慢性中毒により腎臓障害を生じ、ついで骨軟化症をきたし、これに妊娠、授乳、内分泌の変調、老化および栄養としてのカルシウムの不足などが誘引となってイタイイタイ病という疾患を形成したものの」との見解を発表した。

裁判は1971年6月第一審で全面勝利を勝ち取る結果となった。

企業の患者への正式な謝罪は公害病と認定されてから45年、国が推定する最初の患者発生から約100年経てようやく合意に達し、2013年12月17日調印となった。しかし、イタイイタイ病は過去の病気ではなく、昨年富山県が神通川流域の住民を対象にした約7500人の健康調査ではカドミウムによる腎臓障害が疑われる人が362人いたということが報告されている。たとえたんばが還元され、原因企業と和解が済んだとしても病気は今も人を苦しめている。

西村



宇部市まちなか環境学習館 銀天エコプラザ

〒755-0045 山口県宇部市中央町二丁目11番21号

交通手段 J R宇部線：「宇部新川駅」徒歩7分

宇部市営バス：「宇部中央バス停」徒歩3分

駐車場 無し（近隣の有料駐車場等をご利用ください）

TEL/FAX 0836-39-8110

E-mail info@ubekuru.com

開館時間 9時～21時

休館日 毎週火曜日、年末年始（12月29日～1月3日）